NGO の時代は終わったのか
－成熟するアジアの市民社会と日本の NGO の未来－

- **2010 年 11 月 7 日（日）**
- **10 時～17 時半まで（昼食時の懇親会含む）**
- **上智大学中央図書館 L-912**
- **主催：上智大学グローバル・コンサーン研究所、地域研究コンソーシアム、京都大学地域研究統合情報センター**

共催：上智大学アジア文化研究所
後援・協力：上智大学グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻

＜ワークショップの概要＞

近年、アジアの NGO は、住民の声を代表し社会変革運動の担い手として、政府への政策批判を行う抵抗する団体から政府への政策提言を行う専門家集団として変容、さらには政治的な力を持つ勢力として台頭しているケースもある。また、国境を越えたネットワークを形成し自然災害や社会災害を乗り越えた経験、そして民主化を果たした経験を、近隣諸国と共有しようという動きも見られる。アジアの NGO は、その力を確実に伸ばしている。

アジアの NGO の能力向上がみられる中で、日本の国際協力 NGO の意義を問い直す時期にきている。現地で日本人がプロジェクトを実施する意義はあるのか。欧米の国際協力 NGO との戦略の違いは何なのか。社会的起業、企業の CSR が注目されるなかで、それらが担えない NGO の特別な役割は何であろうか。アジアにおける NGO の現状を見ながら、日本の国際協力そのもののあり方を見直し、すでに行われている新しい取り組みや、国際協力 NGO の現状を分析することで、今後の新しい役割を考えていきたい。

本ワークショップでは、地域研究者として NGO と関わりさらには NGO で実際に働く経験持つ研究者らによる報告から、アジアにおける NGO の動向、アジアで活躍する日本の NGO の取り組みをみていきたい。そして、日本の国際協力 NGO の抱える問題と将来的な役割は何か、国際協力における日本らしさとは何かを考えたい。また、地域研究者と実務者の緊密な関係構築が国際協力に果たせる役割についても議論したい。本ワークショップでは、新しいネットワーク構築のためにも、一方的な研究発表ではなく、NGO で従事している人、関心がある人との意見交換を活発にし研究者と NGO スタッフの新しいつながりを築きたい。

10：00－10：05　開会の挨拶と主旨説明
10：05－12：15　第 I 部　報告「アジアにおける NGO の現在と日本の国際協力」
12：15－13：15　ランチタイム・フリートーク
13：15－15：15　第 II 部　報告「日本の国際協力 NGO の現状と課題」
15：15－15：30　コーヒーブレイク
15：30－17：30　第 III 部　討論「NGO の時代は終わったのか～日本の国際協力 NGO の未来と地域研究の役割」

第I部　　報告「アジアにおける NGO の現在と日本の国際協力」

国内に貧困、環境問題、地域紛争などグローバル・イシューを抱える「南」側諸国では、逆説的にこれらの問題に取り組む NGO が資金力、問題解決能力ともに成長してきた。有能な多くの人材が NGO に集まり、交渉能力、ロビイング、ドナー、資金獲得、そして事業の実施において、経験の蓄積がある。権威主義体制下においては欧米諸国が人権団体への多額な資金提供を戦略的に実施し、少なからず市民社会形成、民主化プロセスに影響を与えてきたという国際的な背景も存在する。国境を越えたネットワークを形成し、「北」による「南」の支援という従来の国際協力の枠組みから、「南」による「南」の支援、さらには「南」から「北」へとその活動の可能性を探りつつある。政府だけでは行き届かないサービスを実施する担い手として NGO は欠くことができない。現地 NGO のネットワーク化が進む中で、日本の国際協力 NGO が現地で果たせる役割とは一体何であろうか。第一部では、アジアにおける NGO の現状を、バングラデシュ、インドネシアの事例から考える。他方、アジアで活躍する日本の NGO はどうか、近年では多くの NGO がカンボジアで活動する。フィリピン、東ティモールからカンボジアにシフトしてきた背景についてみていく。三つの報告から、日本の国際協力 NGO の存在意義とは何であるかを問い直してみたい。

司会	幡谷則子	上智大学グローバル・コンサーン研究所	
第一報告 **10:05〜10:30**	日下部尚徳	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究員	バングラディッシュの事例（社会的起業家の成長とその課題）
第二報告 **10:30〜10:55**	堀場明子	アンリードュナン人道対話センター・上智大学アジア文化研究所	インドネシアの事例（ポスト・スハルト期の NGO の変容と新しい動き）
第三報告 **10:55〜11:20**	山田裕史	カンボジア市民フォーラム・上智大学アジア文化研究所	カンボジアでの事例（なぜ日本の NGO はカンボジアに群がるのか）
コメント **11:20〜11:35**	鈴木直喜	清泉女子大学	
質疑応答およびディスカッション 11:35〜12:15 議論が続けば、軽食を取りながら話を続けてもらう。			

第 II 部　　討論「日本の国際協力 NGO の現状と課題」

成長する「南」の NGO がある一方で、日本の NGO の資金不足、人材不足は深刻である。資金不足であるがゆえに ODA 資金に事業資金の多くを依存せざるをえず、給与水準の低さ、社会保険無加入などの労働環境の劣悪さが人材流出の問題へとつながり悪循環となっている。日本におけるロビイングや資金調達の難しさなど日本独自の問題も抱えている。多くの NGO は東京を中心に活動が進められており、地方との格差も見られる。第二部では、日本の NGO の歴史と発展を日本の政治的、社会的文脈に位置づけることで、NGO の抱える日本的な問題点を整

理したい。そして、現在、NGO が直面している現状を知ることから、国際協力 NGO の役割を考えていきたい。

司会	福武慎太郎	上智大学グローバル・コンサーン研究所	
話題提供１ **13:15〜13:40**	越田清和	自由学校「遊」	日本の NGO の変遷（PARC の経験より）
話題提供２ **13:40〜14:05**	林明仁	東京大学博士後期課程	日本の国際協力 NGO の現状
コメント **14:05〜14:25**	金敬黙	中京大学	
質疑応答およびディスカッション　14:25〜15:15 議論が続けばコーヒーを飲みながら話を続けてもらう			

第Ⅲ部　討論「NGO の時代は終わったのか―日本の国際協力 NGO の未来と地域研究の役割」

アジアの市民社会の成長、日本の国際協力 NGO の課題、NGO を取り巻く環境は刻々と変化し、NGO 自体も現状を見極めた柔軟な対応が求められている。ここで再び日本の NGO の今後のあり方と役割を考えることは必要ではないだろうか。日本の強み、日本だからこそできることとは一体何であろうか。NGO のネットワーク化や地域研究者との連携など、新しい動きも見られる中で、日本の国際協力のあり方も見直したい。現地の情報とネットワーク源として地域研究者を実践的に活用することは、効果的な国際協力には有効ではないか。実務者と地域研究者の対話と相互関係構築もまた、国際協力を考える上で重要となってくる。また、地方自治体の国際協力との連携も効果的であろう。第三部では、様々なあり方を模索しつつ、日本の国際協力 NGO の今後の展望に関してできるだけ積極的に参加者の意見を聞きつつ、議論を進めたい。

司会	福武慎太郎	上智大学グローバル・コンサーン研究所	
話題提供１ **15:35〜16:00**	西芳実	立教大学	地域研究と NGO の連携
話題提供２ **16:00〜16:25**	鄭基淑	上智大学グローバル・コンサーン研究所	地方自治体の国際協力
コメント **16:25〜16:40**	石井正子	大阪大学	
質疑応答およびディスカッション　16:40〜17:30			